

## 第 5 回「甲状腺検査評価部会」 開催報告

- 1 日 時：平成 27 年 2 月 2 日（月）13:30～16:35
- 2 場 所：福島ビューホテル 本館 3 階 「吾妻」
- 3 部会員出席者（50 音順、敬称略）  
[出席] 春日文子、加藤良平、櫻田尚樹、渋谷健司、清水一雄（部会長）、  
清水修二、西美和、星北斗  
[欠席] 津金昌一郎
- 4 事務局等出席者  
＜福島県立医科大学＞  
鈴木真一 教授、志村浩己 教授  
＜福島県＞  
鈴木淳一 保健福祉部長、馬場義文 同次長、小林弘幸 県民健康調査課長
- 5 議 事：
  - (1) 甲状腺検査について
  - (2) その他
- 6 資料一覧：  
資料 1-1 県民健康調査「甲状腺検査（先行検査）」結果概要【暫定版】  
資料 1-2 県民健康調査「甲状腺検査（本格検査）」実施状況  
資料 部会長提出 3 議題に対するコメント（渋谷部会員）  
資料 部会長提出 3 議題に対するコメント（津金部会員）  
※資料 1-1、1-2 は、第 17 回検討委員会資料に同じ。
- 7 主な議論・意見等（要旨）
  - (1) 部会員による現場見学について [部会長報告]
    - ・午前中、郡山市立大島小学校において検査見学、県立医科大学において模擬検査、模擬判定委員会を見学したことについて報告。
  - (2) 甲状腺検査結果概要、実施状況について（資料 1-1、1-2）
    - ・対象者の年齢上昇により進学・就職されている方が増えているがその方の受診率が低下傾向（医大）
    - ・対象者の年齢上昇にともない B 判定が増加（医大）
    - ・結節のサイズ変化については様々なパターンがあり、どのような出し方ができ

るか検討したい。(医大)

(3) 部会長提出 3 議題について

今年度中に、部会として意見集約し、総括（とりまとめ）を行う。(部会長)

- ① 先行検査で得られた検査結果、対応、治療についての評価。  
特に、今の検査と過剰診断に関すること、今後の方向性について（今後の検査方針について。また現行の検査は妥当なものか、また本格検査の検査項目についてなども含めて。）。
- ② 二次検査後、保険診療に移行した際の医療費について
- ③ 対象者の今後の追跡をどのように行っていくか。

(議論要旨・項目)

- 過剰診断とならないよう現在の判定基準を定めている。5mm 以下を経過観察とすることはコンセンサスが得られている。5mm～10mm についてはコンセンサスなく、二次検査の対象とした。(医大)
- 累積罹患率等の検討から、診療ガイドラインを見直し、もっと経過観察としたほうが良いのではないか。(部会員)
- UNSCEAR は、ごく一部には影響があるかもとの見解。米ネバダでの核実験後、甲状腺検査について過剰診断を含め、事前に情報を提供したうえで、受診の判断を委ねている。(部会員)
- 放射線の健康影響の評価における、事故初期の個人内部被ばく線量の把握の必要性を訴えたい。(部会からの依頼とすることで合意)
- 「甲状腺検査」により発生した医療費自己負担を公費負担とすべき。(部会員多数意見として整理)
- チェルノブイリでは若年者ほど影響を受けた。10 年経ったとしても評価すべき対象は中学生、低年齢ほど重点的に追跡していくべき。(部会員)